# 令和５年度　学校評価計画表

奈良県立ろう学校

| | | |
|---|---|---|
| 教育目標 | ◇　聴覚に障害のある幼児児童生徒に対し、心身の障害の状態、発達段階及び特性などに応じて「よく考える授業」を行う。<br>◇　学校と家庭との連携を密にして、幼児児童生徒一人一人の可能性の伸張を図る。<br>◇　幼児児童生徒自らが積極的に社会の変化に対応し、お互いに協力・協調しながら自立心を育てる手立てを図る。<br>◇　社会に対して思いやりや感謝する気持ちをもって表現する力とともに目標に向かって地道に努力する力を育てる。 | 総合評価 |
| 年間重点目標 | 全日聾研を良き機会として、教員一人一人が高い意識を持って課題に取り組み、授業力の向上を目指す。 | |
| 運 営 方 針 | ・早期教育から幼小中高までの多様な幼児児童生徒がいる中で一貫教育のよさを生かした教育課程づくりに取り組む。<br>・手話と日本語の両方の言語について豊かなコミュニケーション環境を整える。<br>・教科指導などで高い専門性を発揮できる指導体制を整備する。<br>・地域との連携により、社会参加･参画・貢献を通じて開かれた学校づくりをすすめる。<br>・安全で安心な学校づくりのために防災教育や心のケアなどを充実させる。 | |

| 令和４年度の成果と課題 | | 本 年 度 重 点 目 標 | 具 体 的 目 標 |
|---|---|---|---|
| すべての教職員が教育目標と運営方針を認識し、学部･分掌部等が連携しながら具体的目標を数値化として捉え達成に向け教育活動に努めた。<br>コロナ禍での感染者数や蔓延状況を総合的に判断し、学校行事の変更や内容の工夫を凝らしながら進めた。<br>　幼児児童生徒への寄り添いや保育･授業力の向上は、手話力を重視し手話学習会の開催、外部講師による講座等を実施した。早期教育部では、地域の聴覚障害当事者を招いての保護者学習会を新たに行った。<br>　GIGA構想では、必要に応じてのオンライン授業やデジタル教科書、電子黒板も常時活用できた。<br>　令和５年度全日聾研(奈良大会)に向けては、プレ大会を催したのち研修会にて成果と課題を全教員で共有した。<br>　プレ大会で確認した課題が明らかになった。引き続き、大学等の有識者から指導を受け専門性向上の研修を重ね、指導力や保育･授業力の充実を図り、本大会で全国に本校の取り組みを発信することが課題であり、目標となる。<br>　地域交流がコロナ禍で数年中止や回数を制限してきた。各学部で停滞していた交流を復活、また活発化させることが課題である。 | １ | 幼児児童生徒が心豊かに学校生活を送り、自立に向けて何ごとにも主体的に取り組んでいこうとする安全で安心な環境づくりをめざす。 | ・　手話を尊重したコミュニケーション環境を保障し、子どもたちが何でも話しやすい環境づくりに努める。また、道徳教育や人権教育、子どもたちへの心理的なケアなどの充実を図る。 |
| | | | ・　保健・安全教育や防災教育、医療的ケア体制などを充実させ、多様な状況に迅速かつ適切に対応できる学校をめざす。また、情報保障や情報伝達のシステムを整備する。 |
| | | | ・　保護者との信頼関係の構築のための情報発信や情報共有に努める。 |
| | ２ | 幼児児童生徒が思考をくぐらせながらわかることの楽しさを十分に感じ、自ら学んでいこうとする、よく考え意欲的に学ぶ授業づくりをすすめていく。 | ・　手話を含め、音声日本語、文字、視覚情報など多様な手段を効果的に組み合わせながら子どもたちが「よく考える授業」作りに努める。 |
| | | | ・　日本語指導を充実させ、基礎学力を向上させるために授業力を高める教員研修を充実させるとともにＩＣＴ教育や視覚的教材の活用を推進する。 |
| | | | ・　子どもたちの多様性や自主性を尊重し、自立心を育てるための手立てを工夫する。 |
| | | | ・　令和５年度全日聾研(奈良大会)を良き機会として、公開授業や研究活動等を通じて、各学部での特色ある保育や授業を展開する。 |
| | ３ | 県内唯一の聴覚障害教育特別支援学校として関係機関との密接な連携を図っていくとともに地域との連携・協働をすすめ、地域と共にある学校づくりを目指していく。 | ・　県内の医療、福祉、就労などの関係機関とのよりいっそうの連携を図るとともにセンター的機能を発揮しながら積極的な支援を行っていく。 |
| | | | ・　学校運営協議会の設置により地域社会や県内の聴覚障害者のコミュニティなどと連携し、地域の方々に支えられる学校をめざす。 |
| | ４ | 効果的、効率的な会議の運営に努めるとともに教職員間の共通理解を深める。また、ワークライフバランスの実現を目指し、心身共に健康で幼児児童生徒に笑顔で接することができる職場環境づくりに努める。 | ・　業務軽減と会議の時間短縮のため、案件作成と資料のペーパーレス化を図り事前にデータで情報共有し、各教職員が内容把握を済ませた状態で参加する。 |
| | | | ・　計画的に学校業務を行うとともに、自己の出勤及び退庁時間や超勤時間数を定期的に確認し、相談等を行い業務改善を進める。 |
| | | | ・　心身の健康維持やストレス緩和に繋がる教職員間の対話や活動等を積極的に行う。 |

奈良県教育振興基本計画（「奈良の学び推進プラン」）が示す各テーマごとの学校教育目標　　〈中期計画〉

| テーマ | 学校の教育活動に関する目標 | 計画期間における具体的目標 | 令和５年度末の目標値等(C) | 令和５年度末の状況(D) | 自己評価(Ｅ) | 学校関係者評価(F) |
|---|---|---|---|---|---|---|
| １．こころと身体を子どもの成長に合わせてはぐくむ | 障害の状態を踏まえた心の健康状態の保持・改善 | SCや医療機関との連携の推進　個別や対象学年実施 | ＳＣや医療機関との相談(児童生徒と保護者別対応計画)延べ120件以上、文書化し学級･学部で情報共有を実施 | | | |
| | 子どもの聴覚状況の把握と聴力維持 | すべての子ども(88名)の聴力測定と管理･対応　各学期１回以上 | 校内幼児児童生徒の聴力測定と管理･対応延べ300件<br>地域支援での聴力測定と管理･対応延べ50件 | | | |
| | 医療的ケア対策を講じた安全で安心な環境の整備 | ヒヤリハット事象報告書を作成し情報共有を図る | 事象報告は発生翌日に回覧。状況に応じて医療的ケア委員会を招集。事象発生がなくても学期1回以上の委員会を実施 | | | |
| ２．学ぶカ、考える力、探求する力をはぐくむ | 聴覚障害の子どもの実態に即した授業と学習評価の充実 | ３観点を意識した評価の付け方、通知表の所見について校内研修実施 | 12年間を通じた記載や書式を含めた各学部研修１回以上実施、通知表への全面記載と修正改善 | | | |
| | 保育力･授業力向上に向けた授業改善 | 各学部で外部講師を招聘して研究会を実施　年２回以上 | 指定授業公開等を実施。各学部とも外部講師1回以上の来校による助言指導により保育･授業改善 | | | |
| | 情報モラル教育の充実 | ICT機器の利用や音源、写真、画像、イラストなどを使用する際の著作権の研修を実施 | ICT機器に関する研修会10回実施(研修会2回は必修研修とし全員参加) | | | |
| ３．働く意欲と働くカをはぐくむ | 幼稚部･小学部･中学部･高等部を通したキャリア教育の充実 | 縦割りの活動を行う | スター交流会:1･2学期(学部間行事)、小中交流「スマホ学習」(生徒会)、幼中の保育実習(家庭科)、体育大会での縦割り活動(年1回)で実施 | | | |
| | 本人や保護者のニーズに応じた進路指導と関連機関との連携 | 進路選択及び決定の支援を行う　進路決定率１００％ | 高等部3年生(8名)の進学又は就職の100%決定 | | | |
| ４．地域と協働して活躍する人を育てる | コミュニティスクールの運営・推進と地域社会とのつながり | 学校運営協議会との連携　年２回以上 | 学校運営協議会年3回(協議検討)並びに選択来校2回(授業参観･質疑応答･指導支援等) | | | |
| | 地域の人的資源の活用 | 0歳から２歳児の地域資源を活用した学習(研修)会を実施　年10回以上 | 地域の聴覚障害者や卒業生による聴覚障害当事者の研修会を10回以上実施 | | | |
| | 社会教育の推進 | 地域の施設等を活用した学習　各学部年１回以上 | 各学部での遠足並びに校外学習、高等部は外部講師による学習会を学期１回以上実施 | | | |
| ５．地域で個性が輝く環境と仕組みをつくる | 特別支援教育に関する理解啓発 | 交流及び共同学習の推進　各学部年１回以上 | 幼:月1回以上、小中高:年1回以上の学校間交流実施。また個人交流を相手校相談の元に実施 | | | |
| | 奈良県いじめ対策方針に基づく防止対策の強化 | 個人別生活カード活用とアンケート実施　年3回以上 | 校内並びに県のアンケートを含め年3回以上実施、事象把握時に個人別生活カード㊙回覧、いじめ対策委員会学期1回以上実施 | | | |
| | 個別の教育支援計画や個別の指導計画の実効性のある活用 | 保護者等の参画及び関係者との連携の推進 | 幼児児童生徒(88名)の各種計画を記載し、保護者と連携しながら実施･評価実施 | | | |

評価結果の分析、今後の改善方策等（年度末総括）